

急遽公演決定！

ジャンルを横断するピアニスト、フランチェスコ・トリスターノがグレン・グールド、そして「東京」へ捧ぐ！

単純にうまいクラシックのピアニストというのではなく、
とてもユニークな視点で音楽をとらえ、
デトロイト・テクノのアーティストと共演したりもしていて、
クラシック界にもしろい人が出てきたとずっと思っていた。

坂本龍一

Francesco Tristano

フランチェスコ・トリスターノ
グレン・グールドへのオマージュ／東京ストーリーズ

2019

11 | 4

月・祝

14:00開演
(13:00ロビー開場)

東京芸術劇場コンサートホール

チケット(全席指定・税込): ¥5,500 / U25 ¥3,500*

出演: フランチェスコ・トリスターノ(ピアノ・シンセサイザー)

プログラム: 第I部 グレン・グールドへのオマージュ／第II部 東京ストーリーズ

一般発売 9 | 28 土

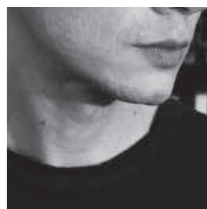
- 東京芸術劇場ボックスオフィス: 0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00) www.geigeki.jp/t/
- チケットぴあ: 0570-02-9999 (Pコード: 165-515) pia.jp/
- ローソンチケット: 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00~20:00) 0570-084-003 (Lコード: 34402) l-tike.com/
- イープラス: eplus.jp

お問い合わせ: サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (12:00~18:00)

★【U25 (25歳以下) チケット】入場時に年齢のわかる証明書をご提示いただきます。
※未就学児入場不可。※都合により公演内容が変更となる場合がございます。何卒ご了承ください。
主催: MIYAZAWA & Co. 協力: ソニー・ミュージックレーベルズ 後援: ヤマハ株式会社



バロック音楽と現代音楽を専門に
テクノからクラシック・ピアノまで
あらゆるジャンルを横断するトリスターノ。



Francesco Tristano

敬愛するグレン・グールドへのオマージュは
グールドが愛した作品の演奏にとどまらない。
「東京」での心象風景が描き出された
《Tokyo Stories》など
トリスターノの新たな音楽性が
いま、ここに！



TOKYO STORIES
Sony Classical
SICC-30507
2019.5.29 release



フランチェスコ・トリスターノ

1981年、ルクセンブルグ生まれ。フランチェスコ・トリスターノは、古典的なトレーニングを受けた実験的なピアニスト、鍵盤奏者、作曲家であり、その音楽的な試みは多岐にわたっていて分類するのは困難である。彼はそのキャリアにおいて、さまざまな音楽——バロック音楽、電子音楽、ダンス、テクノ、前衛音楽など——をそのフィールドの頂点を極めるアーティストたちとのコラボレーションなどを通して新たなリスニング体験へと昇華させてきた。彼のマントラ（スローガン）は「洗練された／教養のある」音楽と「ポピュラー」音楽と呼ばれるものの間には実は差異がない理由についてのアルバン・ベルクの考察から借用された「音楽は音楽 (Music is music)」である。地元ルクセンブルクの音楽院などを経て1998年に名門ジュリアード音楽院に入学。在学中の2002年にバッハの



PIANO CIRCLE SONGS
Sony Classical
SICC-30459
2017.9.27 release



「ゴールドベルク変奏曲」でアルバムデビューしたトリスターノは、協奏曲を含む数枚のアルバムをいくつかのレーベルからリリース、またアメリカ時代から親しんできたテクノをピアノで再構築した「Not For Piano」(2007年／これが日本での彼のデビュー作である)をはじめとしてエレクトロニック・ミュージックの作品をリリースしつつ、クラシックの名門ドイツ・グラモフォンと契約。古典とモダンを俯瞰した「バッハケージ」(2011年)、ブクステフーデとバッハの作品を取り上げた「ロング・ウォーク」(2012年)、アリス＝紗良・オットとのデュオ作品「スキャンダル」(2014年)を発表。2016年にはデトロイト・テクノの名門レーベルTransmatからテクノ系ソロ・アルバム「フラジャイル・テンション」を、



Glenn Gould Gathering
Sony Music Japan International
SICC 19030-1
2018.9.26 release



2017年にはデトロイト・テクノの巨匠プロデューサー、カール・クレイグがオーケストラと共演したアルバム「Versus」に共作演者として参加と、その幅広い音楽性の発露はとまるところを知らない。2017年にソニー・クラシカルと独占契約を結んだ。



©Ryuya Amao